

共生

奈良県生協連

2011年7月

NO.81

万葉のいぶきを求めて—(46)



ユリの花

春されば まづ^{さきくさ}三枝の ^{さき}幸くあらば ^{のち}後にも逢はむ ^な莫恋そ ^{わぎも}吾妹

作者不詳

「春になれば、真っ先に咲く三枝のように、幸く（無事で）いたら、後には逢えることもあるでしょうよ。あまり恋に心を苦しめないでね。恋人よ」

ここでまず引っ掛かるのは、三枝とは何なのかです。春になれば真っ先に咲くといえはミツマタかな？。三枝ということからすれば、枝や茎が三つに分かれるという事になり、ミツマタ・ユリ・ジンチョウゲなどがあると諸説があり決着をみていないようです。

しかし、三枝と言えは、まず思い浮かべるのは率川神社の「三枝祭り」別名「ユリ祭り」といわれるお祭りです。率川神社は平安時代に成立した「延喜式」神名帳に「春日三枝神社」「三枝神社」と記されています。この神社では毎年6月17日に「三枝祭り」が催され、三輪山の麓も狭井川付近に咲くササユリが供えられ、ユリをかざした4人の巫女が舞を奉納し、祭りが終わると、そのユリが参詣者に配られる、奈良の初夏の風物誌です。

第22期奈良県生協連通常総会 開催

6月18日奈良ロイヤルホテル（奈良市）において第22期奈良県生活協同組合連合会通常総会を開催しました。ご来賓・関係者・オブザーバー含め約100名が出席し、提案議案についてはすべて承認されました。



日本医療福祉
生活協同組合連合会
藤谷恵三専務理事



奈良県消費・生活安全課
森藤勝彦課長



ご来賓を代表して 奈良県消費・生活安全課長 森藤勝彦様、日本医療福祉生活協同組合連合会専務理事 藤谷恵三様よりご挨拶を賜りました。

ご来臨いただきました他の皆様は 奈良県消費・生活安全課課長補佐姫野隆昭様、奈良県地域婦人団体連絡協議会会長中島祐子様、県消費生活センター所長 中尾昌史様、奈良YMCA国際生涯学習事業部部長 渡辺新久様、消費者支援機構関西事務局 袋井邦昭様、日本生活協同組合連合会関西地連事務局 小林紀久子様、にご臨席を賜りました。また、全国の生協連合会及び生協、友誼団体より、多数のメッセージをいただきました。心よりお礼申し上げます。

総会に先立ち、3月11日に発生した東日本大震災で犠牲となられた方々に黙祷をささげた後、ならコープ寺田道子代議員を議長に選出し、定刻通り議事に入りました。2010年度活動報告では、特別報告として「東日本大震災での生協の支援の取り組み」が報告されました。また、2011年度方針では、2012年国際協同組合年に向けた取り組みや県民の健康・予防・医療体制の充実のための医療福祉生協設立支援など新たな協同組合運動、協働・連帯の地域づくり等が提案されました。新体制を選ぶ役員選任議案を含め、第1号議案から第5号議案まで一括提案されました。その後、各会員生協から活動報告が行われ、採決の結果、全議案が満場一致で可決承認されました。

2011年度重点課題

- ① 地域での健康づくりと医療福祉生協設立のための支援
- ② 協同組合連帯と国際協同組合年の始動
- ③ 核兵器禁止を求める平和活動の推進
- ④ 消費者課題の推進、食品の安全安心の推進と食料自給力アップの支援
- ⑤ 奈良県生協連ビジョン（協同組合・友誼団体との連携）の遂行と会員支援

もくじ

第22期奈良県生協連通常総会	1～4
退任・就任にあたって	5
協同組合デーのつどい	6

悲しみを乗り越えともに歩もう	7
広がる協同・くらしの輪	8.9
ならコープにおじゃましました	10

2011 年度新体制は以下の通り

役 職	氏 名	所 属	役 職	氏 名	所 属
会 長	瀧川 潔	員外 (市民生活協同組合ならコープ)	理 事	立石 昭彦	生活クラブ生活協同組合
副会長	三輪 敏通	奈良県労働者共済生活協同組合	理 事	中野 素子	市民生活協同組合ならコープ
専務理事	辻 由子	市民生活協同組合ならコープ	理 事	長門 裕明	大阪樟蔭女子大学生生活協同組合
理 事	栗村 俊夫	奈良県立大学生生活協同組合	理 事	前田 陽一	生活協同組合コープ自然派奈良
理 事	桐川 修	奈良工業高等専門学校生活協同組合	理 事	森 宏之	市民生活協同組合ならコープ
理 事	崎濱 誠	奈良教育大学生生活協同組合	監 事	坂梨 勝利	奈良県労働者共済生活協同組合
理 事	竹内 繁	奈良女子大学生生活協同組合	監 事	田村 俊文	市民生活協同組合ならコープ

今年度で退任されました方々

永らく奈良県生協連の発展にご尽力いただきありがとうございました



前専務理事
仲宗根 迪子さん



奈良高専生協
芝田 考一さん



大阪樟蔭女子大生協
柳澤 克哉さん



奈良教育大生協
山下 正純さん

新たに選出されました役員

皆様の一層のご指導ご支援をお願い致します



ならコープ
中野 素子さん



奈良県立大生協
栗村 俊夫さん



奈良高専生協
桐川 修さん



奈良教育大生協
崎濱 誠さん

総会終了後 つどい開催

長門理事の司会で、和やかに行われました。最初に瀧川会長から第1回理事会の報告があり、新しく専務理事に辻由子が就任しました。

奈良県地域婦人団体連絡協議会会長 中島祐子様、奈良県消費生活センター所長 中尾昌史様からご挨拶をいただきました。その後、会員交流として9生協からそれぞれの報告がありました。

新任の理事として栗村俊夫さん（奈良県立大生協）、桐川修さん（奈良工業高等専門学校生協）中野素子さん（ならコープ）が紹介されました。退任される仲宗根迪子さん、芝田考一さん（奈良工業高等専門学校生協）、柳澤克哉さん（大阪樟蔭女子大生協）への感謝の思いを込め、花束が贈呈されました。本当にありがとうございました。



左から 芝田さん、仲宗根さん、柳澤さん

奈良県労働者共済生協

「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を基本理念として、昨年度に引き続き活動してきました。

- ①奈良県労済創立50周年に向け、団体生命共済をはじめとする全員一律加入推進や、火災共済加入者への自然災害共済の付帯率50%目標、生活保障設計に関するセミナー実施など、取り組みを強化しました。
- ②生活保障アドバイザーの増員など対面推進を機軸とした事業推進体制の再構築に向け取り組みました。
- ③自然災害共済大型タイプを積極的に告知し、ランクアップを推進しました。
- ④東日本大震災を優先課題と位置付け、一刻も早い共済金・見舞金お支払いのために、被災地に損害調査要員の職員を派遣しました。



中平 章夫さん

大阪樟蔭女子大学生協

総会では活発に意見が出るようになりました。小阪キャンパスにも新たに生協の店ができ、仲間が増えました。

初めて関屋キャンパスと小阪キャンパスの2つで新入生の歓迎企画を行い、200名以上の新生が入学式前に集まり、友達作りや大学のことを知る場になり好評でした。

次年度も引き続き学生生活の中心となる生協づくりをすすめていきたいと思えます。



岡 晴美さん

奈良教育大学生協

保護者説明会、入学手続き、そして新入生に友達作りの場として4月「お料理講習会」「さくらハイク」「何でも相談会」を行っています。7月の夏祭りでは、組合員、教職員、地域住民が集まりました。「食生活相談会」は6月と11月の2回行い、共済の予防提案活動と位置づけ、栄養士の方を招いて学生の相談に乗ってもらったり、体組織測定やお肌チェックなどを行いました。大学祭では長崎・沖縄の研修に参加した経験や思いを伝えようと、生協食堂で平和ミュージアムを再現し、実物大原子爆弾も展示しました。1月の生協もちつき大会では、奈良実習園の職員さんの協力で食堂でもちつきを行い、「なっしょん」（奈良教育大のマスコット）も登場。機関誌「KIRIN」も年4回発行し、組合員と生協の橋渡しとなる活動を行っています。

「組合員の要求は何か？」アンテナを高く張っていきます。



荻 奈津希さん

奈良工業高等専門学校生協

4月新入生歓迎会、7月かき氷企画、11月食生活相談会、2月ケーキ喫茶を行い、多くの学生に好評を得ました。年2回実施している無料自転車整備には毎回多くの学生が点検を受けに来ます。食生活相談会には、「高校生世代から自分の体質を知ることは大切」と初めてアルコールパッチテストも実施しました。ケーキ喫茶では毎年かなりの人数があり、営業時間内に売り切れるほどでした。



守口 要さん

奈良県立大学生協

ウエルカムパーティを企画し、新入生の友達作りの場を提供しました。1回生の学生委員が入り、活動もさらに活発になりました。組合員が健康について考えるきっかけにしておらおうと食生活相談会を毎月1回1日行いました。11月と6月は3日間行います。AZi祭では大学内の3つの機関と合同で体育祭を行いました。「ピースナウ奈良」では、お寺の住職さんの話を伺ったり平和を考える討論会をしました。サマーパーティ、合宿、秋華祭、オープンキャンパス、ウインターパーティを開催し、その企画を通じて、生協（学生委員会）の様々な取り組みを紹介しました。



岩井 里賀さん



工藤 菜摘さん

奈良女子大学生協

7月七夕祭りでは手作りデザート10種ほど販売。メニューの発案試作を行い大盛況でした。12月クリスマスパーティでも手作りごはんデザート10種ほど販売。受験生サポートとして、大学周辺のお店を掲載した「ならてくてくマップ」、大学生活に関する冊子「NWU48」を作成して、大学生活の不安が消えたと好評でした。新入生や保護者への説明会では、推薦入試合格手続き、前期後期試験、合格手続きなどでも、大学生活に安心できるように、勉強や下宿、サークル、寮、アルバイトなど丁寧に大学生活の案内をし、大勢の方が参加されました。新入生のサポートでは「エントランスイブ」を開催。学科ごとにチームでウォークラリーを行うなどで友達を作るきっかけになったと好評でした。時間割作りのサポートの「受講相談会」では、時間割例や一般教養に関する説明を載せた冊子を作成し配布しています。



北口 芳則さん

生活クラブ生協

設立3周年では『「つながり」を考えましょう』というテーマでシンポジウムを行いました。佐久総合病院の色平哲郎氏、たんぼの家の播磨靖夫氏からメッセージをいただきました。食を通じて地域でのつながりを考えていきたいと思います。消費委員会では「調味料トライアルセット」産直委員会では近場の生産者と交流しました。環境委員会では石けんに取り組み煮洗い(頑固な汚れを煮て洗う手法)を地区活動で紹介しました。それぞれの地区で独自の活動を企画し、魚さばきやケーキづくり、親子企画などに取り組んでいます。朝市を年3回センターで行い生産者の思いを伝えました。農園委員を組合員より募集し、去年はそばと大豆を作り、そば打ちし、枝豆、豆乳、おぼろ豆腐、湯葉づくりなどをしました。震災では義援金を集め、送っています。



福田 幸子さん

コープ自然派奈良

名古屋で開催された生物多様性条約国際会議(COP10/MOP5)の現地に派遣し、コープ自然派や多くの市民・ロビー活動によって、遺伝子組み換え生物に関する責任と修復の国際制度が制定されました。参加した組合員による報告会や枝豆から生物多様性を学ぶ事前親子学習会も開催しました。また、TPP(環太平洋経済連携協定)参加反対決議を11月に採択し、鈴木宣弘氏の講演会を実施し、県内の取り組みに協力し2000筆の署名を集めました。また、地産地消・有機野菜の学校給食をめざし、愛媛県今治市の安井孝氏より先進事例を学び、奈良での取り組みを模索中です。田んぼの生き物調査・産直米「大和ひみこ米」の取り組みも、2年目に入りました。地域活動は生駒に続き、上牧、田原本にも地区くらぶが立ち上がり活動を開始しています。



大川 薫さん
三田 幸子さん

ならコープ

店舗では、組合員の視点で楽しい買いやすい買い場づくりを心がけ、また買い物代行「コープあったか便」を全店に広げました。夕食宅配も開始し、奈良県と「高齢者の生活支援に関する連携協定」を締結しました。障害者雇用の推進のため特例子会社「ハートフルコープなら」を設立準備しました。地球温暖化対策としてバイオディーゼル車21台が稼働、組合員ボランティアによる使用済み油の回収も進んでいます。また、みみなし店では冷ケースの入れ替えと照明のLED化で20%以上の省エネを実現しました。コープネット(組合員委員会)による色んな活動が259企画も展開され、12月には活動グループメンバーが集まる組合員集会も開催しました。3エリアで「たべる、たいせつフェア」を開催。NPT再検討会議(ニューヨーク)に組合員らの募金で、組合員と職員を派遣。募金によるあすなら保育園の設立支援を行い、子育て支援センターも開設いたしました。震災の復興支援のために多くの義援金が寄せられましたが、ならコープとして長期間にわたる支援活動に取り組みます。

退任にあたって

仲宗根 みちこ
迪子

県連理事として7年、専務理事として8年、会員生協のみなさまのお力添えで任務を全うすることができました。私が県連理事になった頃は大学生協が次々に生まれ、会員が5生協から8生協になった時期でした。県連を通じて大学生との交流があり、その若い力にエネルギーをいただいたものです。2003年にコープ自然派奈良、2007年に生活クラブ生協が加盟し、組織体としても充実し、県行政や他団体との連携も深まってきました。2007年の生協法改正は永らく生協が求めていたことでしたが、社会の生協に対する期待と責任が強く出されました。



思い出に残る企画としては、被爆60年に今は亡き筑紫哲也さんを招いて講演と組合員対話、奈良県協同組合連絡協議会やYMCAのご協力を得て開催した「賀川献身100年」企画、そして昨年の県連20周年の行事です。荒井知事さんの基調講演とそれに続く組合員との対話はお人柄もあり和やかに進み、レセプションでの天理大学の雅楽演舞は参加者に奈良の一面をご紹介できて好評をいただきました。また今年度、消費者庁から「ベスト消費者サポーター章」をいただきました。県連活動は、会員生協の参加・参画、関係団体のお力添えがあつてこそ実りを残します。新体制になりましても今まで以上のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。私自身は、県連として支援を決めました医療福祉生協の設立に携わることになります。新たな医療・福祉・健康分野を担う生協を作る運動にご支援をお願いして退任のご挨拶といたします。

専務理事就任に当って

辻 よりこ
由子

このたびの第1回理事会で専務理事に就任しました辻 よりこ 由子と申します。組合員出身専務仲宗根さんの後を継ぐということになりますが、経験も浅く不勉強ですので求められる役割を果たすのは並大抵のことではないと重圧を感じています。みなさまのご指導とご協力を得ながら、「ひとりでは万人のために万人はひとりのために」という私の大好きな協同組合の言葉を胸に、がんばっていく所存です。



バブル崩壊で日本経済が失速し世の中に不安や心配事がどんどん増え始めた1990年ころから、私は地域生協の組合員として活動してきました。お互いにたすけあい、生活者が主体的に改善策を生み出して暮らしに役立てていくという生協運動の本質を、身をもって実感しその価値に確信を深めて来ました。今未曾有の被害をもたらした東日本大震災を契機に、人の絆の大切さが改めて求められています。その絆を紡ぐ生協が、奈良県のなかでさらに元気になれるよう、県連の役割をますます発揮できればと思います。奈良県生協連の仲間は大学生協、労済生協、地域購買生協と、目的や歴史、規模、組合員の年代層のちがいがいなどそのありようが一樣ではありませんが、だからこそ連帯していく面白さもあり意義も大きいと思います。今年度の大きな課題である新たな医療福祉生協誕生も応援しながら、奈良県の生協運動の輪を広げていきたいと思っています。そのために仲間の皆様や行政、諸団体等関係者の方々とコミュニケーションをとることが私のこれからの仕事になります。1日も早くお役に立てるようになりたいと思いますので、どうかよろしく願い申し上げます。



第19回 協同組合デーのつどい



講演と映画の集い ～いのちと健康～

6月16日（木）「第19回奈良県協同組合デーのつどい」が、ならまちセンター（奈良市）で行われ、200人を超える協同組合関係者の参加がありました。年に一度、JA奈良中央会、JAならけん、JA共済連奈良県本部、奈良県森林組合連合会、奈良県生協連で協同組合間の交流と研修の機会として集いを開催しています。

今年は「いのちと健康」をテーマに、岩手県旧沢内村診療所の副所長の後、山添村診療所の所長を務めた吉本清信医師による「地域包括医療をめざして～沢内村から山添村へ～」の講演、沢内村の乳児死亡率0、高齢者医療無料を実現した旧沢内村をモデルにした「いのちの山河」の上映を行いました。

冒頭、奈良県協同組合連絡協議会委員長、奈良県農業協同組合中央会会長の永田正利さんは挨拶で「生協が取り組む医療生協づくりを協同組合あげて応援しよう」と呼びかけられ、瀧川潔県生協連会長は「医療福祉生協がないのは全国で7道県、奈良県でも『医療福祉生協設立』への呼びかけ人も広がった。2012年の国際協同組合年を目標に設立しよう」と話されました。

映画「いのちの山河」は参加者の心を打ち、自治体の役割や命の尊さ、住民参加で健康や命を守り、貧困、雪害が克服されていく様子がわかり、深沢村長が亡くなったラストシーンは多くの参加者の涙を誘いました。

上映後、仲宗根迪子生協連専務理事から医療生協の目的と賛同者の紹介があり、山本陽一森林組合連合会会長の「これからも連帯を強めよう」というあいさつで閉会しました。

住民一人ひとりには弱いけど、協同することで健康や命が大切にされる社会をつくれることが胸に落ちる集いとなりました。



吉本清信先生のご講演
「地域包括医療をめざして」



医療福祉生協の設立
呼びかけ文を見る参加者

日本医療福祉生活協同組合連会 第1回総会

6月7日、東京九段にあるベルサール九段で連合会創立後初めての通常総会が開催され、仲宗根専務と青木設立担当事務局がオブザーバーで参加しました。全国から約200名の総代とオブザーバーが参加し、連合会設立後の活動のまとめと今年度方針が承認されました。

東日本大震災後の医療生協の支援は大変早く、医師・看護師の派遣にとどまらず、ボランティア派遣は今も続いています。被災生協からの報告とお礼、支援生協からの報告と課題は全国共通の認識となりました。また方針に奈良での医療福祉生協設立支援が掲げられ、心強く受け止めました。



日本医療福祉生協連総会

悲しみを乗り越えともに歩もう 希望・未来

～ 東日本大震災報告交流会参加報告 ～ 於：宮城

3月11日の東日本大震災から3ヶ月がたちました。被災県では、現在も被災者・組合員支援、避難所支援被災事業の復旧・復興に向けて各生協の懸命の取り組みが続けられています。また、多くの避難者の方が避難所で不自由な生活を余儀なくされながら復興に向けて必死に努力されています。被災地の実態と各生協の取り組み、現状や今後の対応をご報告いただき、被災地への今後の長期支援やクライシス対応等について、検討・共有のために全国の生協から約80名が参加して「東日本大震災報告会」が開催されました。奈良県生協連とならコープから6名が参加しました。

現地視察行程

- [5月31日] 仙台駅～仙台空港周辺～みやぎ生協^{ゆりあけ}関上店(名取市)～みやぎ生協大代店(多賀城市)～七ヶ浜(多賀城市)～仙台港…仙台市にて報告会
- [6月1日] 石巻市～みやぎ生協^{へびた}田店(石巻市)～みやぎ生協石巻支部(石巻市)～渡波^{わたのは}～万石浦^{まんごくうら}～女川町^{おながわ}～石巻市
- *2日目は、岩手県の現地視察～いわて生協の報告会のコースもありました。

悲しみを乗り越え共に歩もう

尊い人命とこれまで築き上げてきたものを一瞬で失った。しかし、一方で数え切れない助け合い、人と人のつながりのすばらしさ、連帯のすばらしさ、職員の献身的な努力を得ることができた。協同を広げてきた生協として震災の中でその役割を發揮できた。

みやぎ生協では15名の職員が亡くなりいまだに1名が行方不明。多くの家族の方の死亡や家屋の全壊などの被害を受けた。店舗も直撃の被害を受け、本部も使用不可となった。

そうした中でも、店舗では11日当日27店、翌日には44店が地域のインフラとして商品を提供し続けた。協同購入では配達が可能になる中、支援物資を配送し、14日からお見舞い活動や避難所訪問を行い、行政からの要請に基づく支援物資を352万点届けた。

日本生協連始め全国の48生協から1,890名の支援を受け協同組合の連帯のすばらしさを發揮できた。極めて甚大な被害であったが、生協の持っているインフラとしての力、メンバー（組合員）の協同の力、全国の連帯の力を結集し、震災前以上にメンバー・地域に貢献できる生協作りと一日も早い復興へ全力をあげて取り組む。

みやぎ生協 宮本専務の報告から

生協が築いてきた人と人とのつながりが大きくいきた

3月11日には10人が帰着できなかった。山を越え1日かけて歩いて帰ってきたのは13日。女川では2名が避難していた。配達から戻って津波が来るということを知り、組合員を助けに戻り、津波に飛びこんで二人助けた職員もいる。

職員60人中25人が家族や家を流されているが、全員が出動してお見舞い活動などに取り組んでくれた。職員の中には退勤と同時に沿岸地域を歩いて家族を探している職員もいる。メンバー（組合員）さんに担当の顔を見せると安心してもらえ、感謝の声があるから「明日も出勤する」となる。メンバーから元気をもらっている。

「支部を通じて何ができるか」をみんなで相談し取り組んでいる。「できるところからやろう」と、土日には「片付け隊」を作って組合員に支援している。「全力で何とかしようよ」と皆で取り組んでいる。

全国の支援があったからこそここまでこれた。復興に向けて一歩踏み出しただけ。永い支援をお願いしたい。

みやぎ生協石巻支部 齊藤支部長の報告から



仙台空港周辺

8～12mの津波が襲った。近くにあった生協の物流センター壊滅。



名取市関上地区

人口の1割以上の方がなくなった。



関上店

画海岸から2km壊滅。片付けられたが周辺は瓦礫の山。現在も営業できていません。



女川町

入りくんだ湾のため38mまで津波が駆け上がった。死亡・行方不明の方が人口の約1割。

奈良県生協連としても、会員生協とともに支援活動を続けていきたいと思っております。

広がる協同・くらしの輪

□東日本大震災 3・11報告会

5月15日（日）の午後、あすなら苑ホールにおいて開催され、48人が参加しました。震災後約2カ月、現地支援に入った各団体・個人と県内で支援している方の9人の報告がありました。

大学生協職員（福島）と学生（七ヶ浜）、ならコープ職員（仙台・石巻・遠野）、奈良市社会福祉協議会のボランティア（気仙沼）、ならコープ理事会（茨城・宮城・石巻）、あすなら苑長（女川）、奈良災害支援ネットによる県内避難者の受け入れ状況など、各地の被災状況と取り組みを聞くことができました。

今回の震災は大津波と原子力発電所事故の影響もあり、復興がなかなか思うように進みません。多くの人々の関心と息の長い支援の必要性が共通の思いになりました。



学生からの報告もありました

□「福島第一原子力発電所事故について」講演会（主催：温暖化防止ネットワーク関西）

5月14日（土）新大阪の大阪コロナホテルにて、奈良県生協連も加入している「温暖化防止ネットワーク関西」が、各府県生協連や生協、NPOから33人が参加して、内部研修として開催しました。

講師は原子炉格納容器の元設計者の後藤政志さん。福島第一原子力発電所で何が起こったのかを専門家の立場から報告していただきました。「運転している側が状況を把握できていない中で懸命の対策をしている。放射性物質の放出量は、すでにチェルノブイリ事故の1/5になり、現在も進行中。最悪の事態を伝えるべきであり実態を知らない対策はできない。急性被曝と晩発性被曝があり、晩発性の場合ほどどこまでならば安心なのか詳しくわかっていない。許容量は緩めてはならない。今までも地震学者は警告し、自分も事故隠しに不信感を持ってきた。原子力は人間の技術が確立できていないものであり、許容できない範囲のリスクがある。これをもってまですべき技術ではない。」と話されました。参加者から熱心な質問と意見交換がありました。



元原子炉格納容器設計者
後藤政志さんの講演

奈良県生協連2011年度第1回理事会報告

6月18日 奈良ロイヤルホテル

【主な審議事項】

- 第1号議案** 理事会の構成に関する件
会長・副会長・専務理事の互選について、以下の通り承認された。
会長 瀧川 潔、副会長 三輪 敏通、
専務理事 辻 由子
- 第2号議案** 代表理事選任の件
当会の代表理事を下記の通り選定した。
会長 瀧川 潔
- 第3号議案** その他日程等について

会員の生協総代会が 開催されました

- 5/26 奈良教育大学生協
- 5/26 奈良工業高等専門学校生協
- 5/26 奈良県立大学生協
- 5/27 奈良女子大学生協
- 5/27 大阪樟蔭女子大学生協
- 6/10 ならコープ
- 6/13 生活クラブ生協
- 6/24 コープ自然派奈良
(7/29 奈良県労済生協 予定)

□「アースデー2011 in なら」開催

奈良県生協連が共催している「アースデー2011 in なら」が、2011年4月24日（日）奈良公園登大路園地で開催されました。今年初めて、市民団体・NPOが中心の「アースデイ奈良2011」と同時開催されました。行楽シーズンでもあり観光客も含め7000人が訪れました。奈良県・奈良市など行政をはじめ、多くの市民団体が楽しい体験コーナーを設置し、ならコープ、コープ自然派奈良もそれぞれ出店し情報発信されました。震災による原発事故を受けたエネルギー問題や環境や暮らし方について、真剣に考えるNPO等によるブースも多くありました。

奈良県生協連のブースは、大阪樟蔭女子大学生協の学生委員やOBによる牛乳パックを使ったブーメラン工作が行われ人気のコーナーになり、奈良工業高等専門学校生協の学生委員も参加しました。



牛乳パックで作るブーメランは大人気

□KC's 健康食品メーカー懇談会

5月13日（金）消費者支援機構関西（KC's）による消費者と健康食品メーカーとの懇談会が大阪市内で開催されました。消費者側にこむらいふ奈良とおおさかパルコープの表示ウォッチャーズ、メーカー側からは生協の取引先が参加、景品表示法にかかわる広告表示のあり方について率直な意見交換を行いました。まとめ冊子や実物を示しながら疑問を感じることを報告。

「アンケートでは健康食品を利用している消費者は多いが宣伝文句とちがってがっかりするケースが多い」「正直でわかりやすい広告になるようにもっと業界団体が自主的に取り組みをしてほしい」などの意見が出されました。表示をめぐる事業者と消費者の懇談はこれまで余りありませんでしたが、双方であり方を考える意義のある場となりました。



率直に意見を出しあいました

□「平成23年度消費者フォーラム in 奈良」開催

ベスト消費者サポーター章受賞

「奈良県生活協同組合連合会」「仲宗根迪子奈良県生協連専務理事」

平成23年度消費者フォーラム in 奈良（主催：奈良県消費生活相談センター）が2011年5月26日（木）奈良市西部公民館で開催され、ベスト消費者サポーター章の授与式が行われました。消費者支援活動に尽力した個人・団体に対して消費者庁長官が表彰するもので、奈良県からは2個人2団体が表彰されました。奈良県生協連も仲宗根専務も「奈良の消費者行政を考える会」を立ち上げ奈良県における市町村消費者行政の活性化計画調査」やシンポジウムの開催、行政への政策提言など消費者行政の推進に貢献したことや食品安全行政強化に向け「食の安全懇談会」等の開催が評価されました。その後「今、求められる消費者の自立」と題してニュースキャスターの宮川俊二さんからの講演があり、劇団「そとばこまち」による「消費生活笑百科」と題した劇で「訪問販売のクーリングオフ」「通信販売による返品が可能か」などわかりやすく学ぶことができました。



奈良県生協連 瀧川 潔会長



専務理事 仲宗根 迪子

「子育てひろば・あすなら」スタート!

少子化がすすむ中、ならコープでは、従来から子育て支援政策を持ち、お店の会議室などで、乳幼児を育てている親子が集い交流や情報交換をする『子育てひろば』を設け、地域での子育て支援を続けてこられました。開園したばかりの「あすなら保育園」(大和郡山市宮堂)内の一室で、5月17日からならコープの「子育てひろば」がスタート。そこで取材に行ってきました。

今年4月から木のぬくもりが一杯の「あすなら保育園」が開園されました。特別養護老人ホームあすなら苑など高齢者福祉施設を運営する社会福祉法人「協同福祉会」が多くの人々の支援を受けての開園です。



4月に開園したあすなら保育園

子育てひろば あすなら

- 開いている日 毎週 火・水・木曜日
- 開いている時間 9:30~14:30
- 場所 あすなら保育園内
子育て支援センター
- 対象 未就園の子どもさんと保護者
- 参加費 100円



初日の今日は12組26人の親子が参加しました

子育てひろば5つのポイント

- ①親子が一緒に行ける場所
- ②予約不要でふらっと気軽に立ち寄れる場
- ③ひとりでも安心していける場(スタッフ常駐)
- ④出会いが生まれ、可能性が広がる流動的な場
- ⑤のんびり居ていい場(プログラムは最小限)



広報誌「あをがき」で呼び掛けて集まった木のおもちゃ



午後は外のお山で。山の形は子どもたちの「造山工事」で日々変わるらしい!



隣の部屋で行われている保育園児のリズムの様子

お母さんもほっとできる場所です

作ってほしいという声から、念願の「ひろば」ができました、と挨拶するのはならコープの子育て支援担当の廣瀬アキ子理事。連続4回の子育て支援者講座を受けた組合員から「ひろば」のスタッフになった4名がローテーションを組んで、ならコープ職員の上床匠子さんと保育園の吉岡ひろみさんとで運営していくそうです。保育園の様子を見ながら、園庭遊びなど合流できることは行っていく予定。今回来られたのは、奈良市、広陵町、天理市、郡山市の親子26人。10か月の男の子のお母さんは、「毎日でも来ようと思う。外へ連れ出してもすぐに飽きてしまうので、こんな場所が出来て良かった」との感想。今回はオープン企画で絵本の読み聞かせや手遊びなどがありました。今後、地域での子育て支援として注目されます。



家でできないことを思いっきりできるよ!

花やはっぱを糊で画用紙に思い思いに貼りつける子どもたち

県連日誌

4月

- 6日 日本生協連総会議案検討会
- 8日,9日 岩手県生協連、いわて生協御見舞訪問
- 15日 ピースアクションをすすめる会
- 16日 奈良災害支援ネット報告会
- 16日 つながり祭実行委員会
- 19日 医療福祉生協発起人会準備会
- 24日 アースデー 2011in なら
- 27日 奈良の消費者行政を考える会
- 27日 県安心安全すまいづくり協議会
- 30日 富山県生協連研修会

5月

- 9日 監事監査
- 11日 ピースアクションをすすめる会
- 12日 医療福祉生協発起人準備会
- 14日 温暖化防止ネットワーク関西主催「福島第一原子力発電所事故」学習会
- 14日 奈良災害ネット県内避難者交流会
- 15日 つながり祭
- 19日 第1回行政・生協協議会
- 19日 第7回奈良県生協連理事会
- 26日 消費者フォーラム in 奈良
- 28日 近弁連主催「国民生活センターのありかた」シンポジウム
- 31日 奈良財務事務所モニター会議

6月

- 5月31日、6月1日 東日本大震災報告交流会
- 2日 医療福祉生協発起人会準備会
- 7日 日本医療福祉生協連総会
- 8日 奈良農政事務所消費者団体との意見交換会
- 16日 協同組合デーのつどい
- 18日 奈良県生協連第22期通常総会
- 23日 ピースアクションをすすめる会
- 25日 KC's 総会
- 25日 奈良県農業協同組合総代会
- 30日 関西地連府県連協議会

お知らせ

予 告 ピースアクション in なら2011

日 時 12月3日(土) 午後 **会 場** 奈良市ならまちセンター 市民ホール

講 師 秋葉 忠利 前広島市長

「核兵器廃絶に向けた平和市長会議の取り組みと市民の役割～秋葉前市長と語る～」(仮)

主 催 ピースアクションをすすめる会 (奈良県生協連と会員生協、ならコープ平和の会、ならコープwithユニセフの会で、毎年「核兵器の廃絶を」をめざして参加者とともに考え取り組みをすすめることを目的とした実行委員会です)

編集後記

見習い期間はどこまで許される? お会いした方の顔とお名前、つながりの中身、覚えようとするほどに混乱するばかり。総会で奈良県連の女将さんになりたい、大きなことを言ってしまったのをかなり後悔しています。仲宗根さんはじめ皆さんが築いてこられた奈良県連の歴史の重みに感謝して、また新たな時を刻んでいきます。ご退任の方々、本当にお疲れ様でした。(由)

被災地にも容赦なく大雨が降りそして暑い夏がやってきました。いまだに原発事故の収束が見えず、現場では大変な作業を強いられているのでしょうか。温暖化問題はさらに深刻化していますが、国際交渉は相変わらず先進国と途上国との溝が深く難航。3・11以降多くの人たちの意識が変わったというのですが、未来世代に胸を張れる選択をしたいと願います。(順)

2年前にここで「和而不同」という言葉を選びました。「調和を持ってともに成長し、違いを認めて互いに補い合うということ」との意味もあるようです。今年度は、新しい体制となり初心に返ってこの言葉でスタートしたいとあらためて思いました。ちなみに、今年ピーマンとナスを植えてみました?? (和)